

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200593
法人名	川薩福祉企業組合
事業所名	ケアホーム田海園
訪問調査日	平成21年4月6日
評価確定日	平成21年6月25日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200593		
法人名	川薩福祉企業組合		
事業所名	ケアホーム田海園		
所在地	鹿児島県薩摩川内市城上町9750-1 (電話) 0996-21-9338		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年4月6日	評価確定日	平成21年6月25日

【情報提供票より】(21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 28 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1100 円		

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	3名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86,6 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック、瀬口歯科医院 Kメンタルクリニック、済生会訪問看護ステーション
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川内川沿いを上流に上がった「田海(とうみ)」地区にケアホーム田海園が開設されている。鹿児島県の企業組合として、初めて介護事業に乗り出し、地域に根ざした施設作りを努めてきた。開設7年目のグループホームである。「ここ数年前からやっと、地域に受け入れられるようになってきたように感じる」と代表理事のことばにあるように、隣接するデイサービスはデイ利用の地域住民とグループホーム利用者との交流の場にもなっている。また、職員の育成にも力を入れており、資格取得や知識・技術向上にむけた研修会への参加の奨励や、職員の意識向上につながるようにと交代で勉強会の担当を決め発表する機会を与えるなど職員は自己研鑽に励んでいる。医療との連携も重要視し、協力病院や訪問看護ステーションとの連携を密にとり、利用者の健康管理を徹底させているため、利用者、家族の安心につながっている。これまでの実績を活かし、更に地域との交流を促進し、地域と密着した生活の提供が期待できるグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「目配り・気配り・思いやり」の法人全体の理念を、グループホームの理念にも掲げている。全職員に介護の原点でもある理念の統一を図っている。地域密着型理念を検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員に記入してもらい、管理者がまとめた。職員からは認知症、事故に対する勉強会の取り組みを強化したいとの意見が出るなど、サービスの向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表、自治会代表、市職員などの参加を得て、2ヵ月に1回開いている。利用者の生活状況や行事などの報告、また、出席者にさまざまなアドバイスをもらい、サービス向上に活かしている。参加者から長年交流が途絶えていた利用者の子どもに手紙を出してみてもとの意見があり、試みたところ、返事があり、面会も実現し親子の絆が復活した。今後は、運営推進会議に職員の参加も検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居時の重要事項説明書には、相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。年2回の家族会の際や、運営推進会議でも意見など聞きだすように努め、「苦情・相談委員会」を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	隣接のデイサービスを地域の方々が利用しており、ホームから行き来できるので、利用者と地域住民との交流の場になっている。また、居住していた地区の民生委員の訪問も定期的であり、地区の協議会便りを持ってくなど、利用者が居住していた地区との関係が途切れないようにしている。地元中学生の職場体験学習の受け入れもしており、校区の運動会や地元スーパーでの買い物、暮れ市へもでかけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目配り・気配り・思いやり」の法人全体の理念を、グループホームの理念にも掲げている。全職員に介護の原点でもある理念の統一を図っている。地域密着型としての理念も検討中である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示して職員は出勤時に確認するようにしている。日々のケアでも理念に沿った支援を心がけている。重要事項説明書にも明示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接のデイサービスを地域の方々が利用しており、自由に行き来できるので、利用者と地域住民との交流の場になっている。また、居住していた地区の民生委員の訪問も定期的であり、地区の協議会便りを持ってきてくれる。地元中学生の職場体験学習の受け入れもしており、校区の運動会や地元スーパーでの買い物、暮れ市へもでかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	去年の外部評価結果はホーム内に置き、職員や訪問者が自由に閲覧できるようになっている。運営推進会議でも結果報告をしている。今回の自己評価は全職員に記入してもらい、管理者がまとめた。職員からは認知症、事故に対する勉強会の取り組みを強化したいとの意見が出た。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会代表、市職員などの参加を得て、2ヵ月に1回開いている。利用者の生活状況や行事などの報告、出席者のアドバイスをもらい、サービス向上に活かしている。参加者から長年交流が途絶えていた子どもに手紙を出してみてもとの意見があり、試してみたところ、返事があり、面会も実現した。今後は会議に職員の参加も検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている利用者の相談や、家族のいない利用者の退所後のことや、また、事業所の課題など、市担当者に相談しながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や季刊の「ホームだより」で日頃の暮らしぶりなどを連絡している。状態変化時は電話にて随時報告している。金銭管理は領収証を毎月の請求書送付時に同封し、金銭出納帳にて管理し、面会時にサインをもらっている。職員の異動は面会時に紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の重要事項説明書には、相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。年2回の家族会の際や、運営推進会議でも意見など聞きだすように努め、「苦情・相談委員会」を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者にとってダメージになることを理解し、異動は行わないことを基本にしているが、やむを得ない異動時はダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成の必要性を理解し、外部研修への参加や施設内での勉強会への積極的な参加を促している。外部の研修は時間帯により、出勤扱いのものもあり、参加者は研修報告書を提出し、職員に伝達している。月1回の施設内勉強会は全職員が交代でテーマを決めて発表しており、職員の意識向上につながっている。市主催の認知症サポーター養成講座も受講している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩川内市の事業所連絡会に参加して、意見交換や事例検討会など行いサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の際には事前に本人、家族に見学に来てもらうように働きかけている。本人が来れないときは、管理者が自宅を訪問し本人と会って思いや生活歴など把握するように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として敬い、昔のことばや昔話に傾聴し、ときにはこちらから話題を投げかけて教えてもらったりしている。台ふきを作ってもらったり、そば打ちや郷土料理の作り方を教わるなど、本人から学び、ともに支えあう関係を作っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員全員が個々の性格やその人なりのパターンを把握するように努めている。日頃の言動や表情から情報を拾い上げて職員間で情報を提供しあい共有し、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、主治医、訪問看護師などの意見を聞き、職員会議などでの職員の意見を参考にして個別の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的モニタリングをして、安定していて変化のない場合は3ヵ月から6ヵ月で見直しを行っている。状態変化時は家族、医師と随時話し合い、現状に即した見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の健康状態を把握し、身体状況の変化の早期発見につなげている。また、家族が同行できない場合の病院受診など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、病状や状態によっては家族と話し合い、病状に合った医療機関の受診を支援している。他の病院受診の際は主治医に報告して連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時や状態変化時に本人、家族と話し合っている。かかりつけ医と訪問看護ステーションとの連携でチームとして支援に取り組んでおり、職員も事業所としてできることを理解している。		利用者の高齢化やレベル低下に伴い、再度、職員と話し合い、家族に分かりやすく説明できるようにホームとしての指針と家族の同意書の作成を検討されたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の性格を理解し、一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけをおこなっている。記録物は事務所にて保管している。個人情報については職員から誓約書も採用時にとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間、睡眠時間、食事時間など個々のペースを尊重した支援を行っている。決定してもらえよう雑談の中で納得できるような会話ができるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、調理の手伝いや片付けは当番を決めており、利用者も日々、自分の役割を確認して手伝ってくれている。金曜日は、おやつ希望を聞き一緒に買い物に行くなどしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には午後に設定しているが、希望があれば毎日入ることができ、利用者の意向を考慮している。また、入浴拒否の利用者にも声かけを工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下のボードにその日の作業分担を記入し、利用者は毎朝自分の役割分担を確認し、自発的に役割をこなすように支援している。また、そうめん流し、あじさい見学、花見など、出かけるときは外出用の衣類を職員と一緒に楽しみながら選んでいる。新聞を楽しみにしている利用者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、散歩、地域の市(暮れ市)買い物の同行など、その日の希望や天候に応じて外出ができるように支援している。今後は、身障者用トイレの設置の有無を把握して、長時間の外出先を開拓していきたい意向である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、外出傾向のある利用者を把握し、十分な目配りと行きそうな場所を把握している。外出した際はさりげなくついていき、一緒に花を摘んだり、散歩をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力で昼想定で避難訓練と消火訓練を実施している。隣接の有料老人ホームとの連携で通報手段など話し合っている。また、近隣に職員が居住しており、地域の防災重点地域として地域住民の協力がもたらえる体制がある。本年度は夜間想定で火災訓練の実施を計画している。救命救急の指導も受けている。災害時の自家発電と備品などの準備もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立を作っているため、栄養のバランスは取れている。また、毎食の摂取量を確認し、毎月、体重測定を行い、主治医にチェックしてもらっている。水分摂取の少ない利用者にはお茶以外の飲み物をすすめて支援している。また、身体状況に応じて食事形態(おかゆ・刻み食)に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く温度調節や換気、掃除など行き届いており、洗面所、トイレなど、身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮が行き届いている。また、建物内は段差をなくし、転倒などの危険防止にも配慮している。木製の大きなテーブルやソファが配置され利用者は思い思いのところでくつろいでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、布団、タンスは家族と相談し、ホームのものを提供している。居室には自分の作品や家族の写真、人形などを飾り、利用者が安心して、落ち着いた生活を送れるように工夫している。		